

今までの指導の問題点

従来型の指導の具体例

(1) 指導計画例 (総時数5時間) 『魚を育てる森』 中学1年

- | | |
|--|------|
| ① 全文の概要を理解し、大まかな構成をとらえる。 | 1 時間 |
| ② 難漢字の読み及び難語句の意味を確かめる。 | 1 時間 |
| ③ 意味段落1・2を読み、襟裳岬の自然環境の変化やその原因を読み取る。 | 1 時間 |
| ④ 意味段落3を読み、森が海のために果たしている役割を読み取る。 | 1 時間 |
| ⑤ 意味段落4・5を読み、森が果たしているもう一つの役割と筆者の主張を読み取る。 | 1 時間 |

(2) 指導過程例

- | |
|-----------------------|
| ① 一段落ずつ要約していく。 |
| ○ キーワードやキーセンテンスに注目する。 |
| ○ 指示語や接続語に注目する。 |
| ○ 小見出しをつける。 |
| ② 文章全体の構成をとらえる。 |
| ○ 段落と段落を関係付ける。 |
| ○ 文章構成図を書く。 |
| ③ 要旨をまとめる。 |
| ○ 要旨の正確な理解が最終目標 |

このような手順を踏むことで、文章を正確に読解することもできるし、正確に読解する技能や説明的な表現を身に付けることができると考えられてきました。その結果、いつも同じ指導過程が繰り返されることになりました。

これらの指導方法の問題点

- (1) 指導内容が、キーワードやキーセンテンス、指示語や接続語、文章構成などの形式面や要約を中心とした技能面に偏重している。
- (2) 文章に表現される内容の理解が、表面的な読み方に止まっている。
- (3) 教材文がいつも絶対的なものとされている。正確に理解することが優先されて、読み手が内容に疑問をもつことや表現の妥当性を問うことが許されない。疑問をもつことや表現の妥当性を問うことも主体的に読むためには重要な力である。
- (4) いつも同じ指導内容、指導方法、指導過程が繰り返行われている。要約の技能も教科書教材などの短く整った文章では、一つのやり方で通用するが、文章が長くて論理構成が複雑になれば、それに応じた要約の仕方が要求される。一つのやり方を繰り返すことは、他のやり方を学べなくすることでもある。

説明的文章教材の読みの指導に充てられる時間全体から考えれば、これまでのものは余程狭いものに偏っている。それが飽きにつながり、興味や意欲を失わせる結果となっている。